

《専門教育科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）			科目ナンバリング	5021209200
担当者氏名	原 志津			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《テキスト》

コンパス「教育相談」 建帛社 住本克彦編著

《参考図書》

学習指導要領(文部科学省) 生徒指導提要(文部科学省) 「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」 滝口・田中 創元社

《授業外学習》

授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。ころについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をかいて、最終授業日に提出してください。

《学習状況・理解度の確認》

小テストやレポートはコメントをつけて返却する。 最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《備考》

教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。授業内で、カウンセリングのロールプレイやフォーカシングというセルフカウンセリングを行い、実感を持って学べるよう（アクティブラーニング）工夫している。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
		自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。
		子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	65%
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	
授業内課題	
その他（ ）	15%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しくく」ということの心得を考える。	配布資料を読んで復習	45分
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45分
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）をおこなう。	ロールプレイの感想レポート	45分
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45分
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学び、実際に体験して学ぶ。	小テストの準備	45分
6	自分自身のテーマを知る	カウンセリングについて的小テスト（30分）、自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45分
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45分
8	軽度発達障害について学ぶ	軽度発達障害について学ぶ	配布資料の復習・予習予習	45分
9	軽度発達障害について学ぶ(2)	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ	配布資料の整理	45分
10	いじめの被害者・加害者への理解と対応	学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える。	配布資料の復習	45分
11	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ	配布資料の復習	45分
12	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、ひとつの事例について知る	映像教材に対する感想レポート	45分
13	不登校の子どもへの理解と対応	どのような態度で子どもたちに向き合えば、不登校の子どもたちの問題解決につながるのか考える。	配布資料の予習と演習の復習	45分
14	教師のメンタルケア・教育と福祉の連携	子どもたちの心のケアと教師のメンタルケア・教育と福祉の連携・スクールソーシャルワーカーの役割を知る。	配布資料の予習と復習	45分
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	生徒指導論			科目ナンバリング	5021209600
担当者氏名	岡田 広示			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

受講者は、学習指導と並ぶ学校における重要な教育活動である生徒指導は、児童生徒一人一人の人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、全ての教育活動を通じて行われるものであることを理解し、教師としての対応力を身につける。

《授業外学習》

テキストの生徒指導提要のページをしっかりと読んでおくこと。

《テキスト》

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

《学習状況・理解度の確認》

毎回のコメント用紙に記入された事柄について、重要と考えられるものについて講義のはじめに解説する。

《参考図書》

子どもの社会性を育む積極的生徒指導（中村豊著、学事出版）

《備考》

student teaching theory

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	生徒指導の意義や原理について理解する
		全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について理解する
		生徒指導上の課題を把握しチームとしての学校を確立し外部関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	40%
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	積極的生徒指導の意義と原理		60分
2	生徒指導と学習指導	生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について	生徒指導提要P23	60分
3	校内における組織体制の在り方	学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて	生徒指導提要P88-89	60分
4	集団と個	全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について	生徒指導提要P75-77	60分
5	生徒指導に関する調査結果	学校における問題行動の現状と課題	文部科学省HP	60分
6	事例研究	いじめについての具体的な対応策の検討	生徒指導提要P173-174	60分
7	事例研究	不登校等について、家庭訪問を含めた対応策の検討	生徒指導提要P187-189	60分
8	事例研究	児童虐待について児童相談所や警察との連携を通じた対応策について	生徒指導提要P212-217	60分
9	児童生徒理解と生徒指導	発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて LD, ADHD, ASD等の児童生徒と集団の関り	生徒指導提要P42-537	60分
10	講義と事例研究	校種間連携の現状と課題	生徒指導提要P75-77	60分
11	生徒指導と連携	児童生徒の問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の現状と課題（青少年の行動の理解－インターネットと性）	生徒指導提要P178-179	60分
12	特別活動との関連	生徒指導と学級・学校経営について	生徒指導提要P138-141	60分
13	法規に準じた生徒指導	問題行動に対する懲戒と関連法規について		60分
14	生き方としての生徒指導	キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方		60分
15	まとめと試験	自尊感情を育む積極的生徒指導の意義についてのまとめと確認のための試験		60分

《専門教育科目》

科目名	教職概論			科目ナンバリング	5021210100
担当者氏名	岡田 広示			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房 『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』 古田薫・山下晃一（編著）、ミネルヴァ書房 その他必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史的変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
		教員養成と教員免許制度について理解している。
		教員の任免と服務について理解している。
		教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
		教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	10%
レポート	20%
発表・実技	5%
授業内課題	5%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史的変遷	・教職観の歴史的変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウンタビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウンタビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかをグループディスカッションを通して考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解した上で働き方に関する課題についてディベートを行い深める。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。 ・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論			科目ナンバリング	5021211200
担当者氏名	杉田 律子			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《テキスト》

廣瀬由美子・石塚謙二編「特別支援教育」ミネルヴァ書房

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。 オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の聴覚幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として、最低限必要な障害等の概要を理解できる。
		子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
		外国籍や貧困など特别的教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	
レポート	
発表・実技	20%
授業内課題	10%
その他（ ）	10%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援教育の理念と制度 (1) 教育の変遷、インクルーシブ教育	特別支援教育の歴史的変遷。インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF, 合理的配慮	学習のまとめプリント	45分
2	特別支援教育の理念と制度 (2)	特別支援教育の理念、制度 特別支援学校と通常学校。アクティブラーニング	事前学習プリント	45分
3	通常の学級担任の気づきとアセスメント	通常学級の特別支援教育の重要性。学級経営。子どものアセスメント。	学習のまとめプリント	45分
4	発達障害の心理特性 (1) LD, ADHD	発達障害 (LD, ADHD) の特性理解と基本的な対応。発達の特性に合った合理的配慮	事前学習プリント	45分
5	発達障害の心理特性 (2) ASD、知的障害	知的障害と発達障害 (自閉症スペクトラム障害ASD) の特性理解と基本的な対応。発達の特性に合った合理的配慮	事前学習プリント	45分
6	二次障害の理解と対応	通常学校における特別支援教育の課題。発達障害の関連症状と精神障害。二次障害への対応。	学習のまとめプリント	45分
7	様々な障害の理解と対応／反転授業	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱・病虚弱の特性の理解と基本的な対応。反転授業	事前学習プリント	45分
8	特別な教育的ニーズへの理解と対応／障害理解教育	外国につながる子どもの支援、貧困、児童虐待など特別な教育的ニーズの理解と基本的な対応。	事前学習プリント	45分
9	特別の指導「自立活動」	障害の捉え方と自立活動およびその実態。アクティブラーニング。合理的配慮を前提にしたクラス運営を実現するため、障害理解教育について理解する	事前学習プリント	45分
10	「通級による指導」での指導の実際	通級による指導仕組みと教育課程、指導。事例検討。アクティブラーニング	学習のまとめプリント	45分
11	特別支援学級での指導の実際	特別支援学級の仕組みと教育課程、指導。事例検討。アクティブラーニング	事前学習プリント	45分
12	ICT機器の活用と指導の実際	特別支援教育におけるICT活用の意義	事前学習プリント	45分
13	個別的教育支援計画と個別の指導計画	個別的教育支援計画と個別の指導計画の作成の実際	学習のまとめプリント	45分
14	特別支援教育コーディネーター校内支援体制	特別支援教育コーディネーター校内支援体制についての事例検討。アクティブラーニング。	事前学習プリント	45分
15	関係機関や保護者との連携。	保護者との連携とその支援。関係機関との連携	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	道徳教育の理論			科目ナンバリング	5021211300
担当者氏名	林 敦司			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

学校教育全体を通して道徳教育について理解するとともに、健康や食育に関わる教育活動を踏まえながら、道徳教育及び道徳科の特質や内容を理論と実践面から学び、専門性と実践的指導力を身に付ける。また、道徳教育の基本概念である道徳性の育成について理解し、カリキュラム・マネジメントに基づき道徳教育を学校の教育活動全体の中でどのように進めていくのかを考察する。学習指導案の作成や模擬授業等を通して、職務の専門性を生かした授業構想力を習得する。

《テキスト》

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳』文部科学省、廣済堂あかつき株式会社

《参考図書》

1.『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版 2.『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発研究所

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	履修カルテ参照	道徳の歴史や意義を踏まえて、児童生徒の発達段階に応じた道徳教育について主体的に考えることができる。
○	履修カルテ参照	道徳教育の要としての道徳科の役割を知り、カリキュラム・マネジメントについて説明できる。
◎	履修カルテ参照	道徳教育における栄養教諭の役割を理解し、職務と関連付けて主体的に考えることができる。
○	履修カルテ参照	アクティブラーニングを踏まえた教材吟味・指導過程・指導方法などを理解して、栄養教諭の専門性を生かした学習指導案の作成や授業の改善を図ることができる。
○	履修カルテ参照	授業構想についての発表・交流によって、実践的な指導力を身に付けることができる。

《授業外学習》

・事前にテキストの指定箇所を通読し、疑問点をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
・授業後に資料やノートを整理するなど、自己学習による補充を行うとともに、授業中での発表や話し合いから得られた学びをもとに、授業構想の見直しや学習指導案の改善を図ること。
・本講義の道徳教育の学びが、自身の専門分野に生かされるように課題意識をもって学習を進めてほしい。

《学習状況・理解度の確認》

レポートなどの提出物にコメントを付して指導するとともに、返却後に要点の解説を行うことで知識の確実な定着を図る。

《備考》

演習ではグループ討議や発表を実施する。主体的に授業に参加することを期待する。担当者は、教諭及び管理職として学校勤務や教育実習指導歴のある実務経験者である。8週の授業計画である。 Theory of

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	50%
発表・実技	0%
授業内課題	30%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	道徳教育の基本型と歴史の変遷	道徳教育とは何かを、理論的・歴史的・実践的な側面から考え、学習指導要領の変遷も含めて理解する。	テキストp.1～p.9 道徳授業想起	45分
2	道徳性の発達と道徳学習	道徳性の発達を踏まえて、現代社会における様々な課題を再認識し、学習指導要領に則した道徳教育の進め方について理解する。	配布資料通読	45分
3	道徳教育の基本構造と道徳科の目標及び内容	道徳教育の基本構造を踏まえて、学習指導要領に則した道徳科の意義や目標及び内容を理解する。	テキストp.122～p.127	60分
4	内容項目とカリキュラム・マネジメントに基づく評価	学習指導要領における内容項目を理解し、カリキュラム・マネジメントに基づく道徳科の評価の在り方や方法について考察する。	テキストp.22～p.27 p.107～116	60分
5	道徳科の指導と教材活用	職務の専門性を生かしながら、児童生徒が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。	配布資料通読	60分
6	アクティブ・ラーニングを踏まえた道徳授業	アクティブ・ラーニングを踏まえた道徳授業論や授業モデル（動画）から具体的な指導過程を構想し、学習指導案を作成する。	p.78～p.86 授業構想案作成	90分
7	模擬授業の演習と学習指導案の作成	実施した模擬授業について、グループで指導過程、発問構成、板書等を吟味・検討し、学習指導案の見直しを図る。	p.87～p.101 学習指導案作成	90分
8	模擬授業の成果・課題の交流と授業スキルの向上	模擬授業の成果と課題を交流し、道徳授業の指導方法と評価について考察することで、実践的指導力の形成を図る。	学習指導案の吟味・改善	60分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	特別活動・総合的な学習の時間			科目ナンバリング	5021211800
担当者氏名	岡本 洋之			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習（探究）の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を身に付けるとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習（探究）の時間は時代の要請に応じて近年力が入れられている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説、高等学校学習指導要領（同）とその解説（※ただし購入する必要はない。必要な分を授業中にプリントして配布する。また文部科学省サイトよりダウンロードすることも可能である）

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

中学校新学習指導要領の展開 特別活動編／総合的な学習編（明治図書） 高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編（同）

《備考》

授業においてはディスカッションを行う。また担当者は、教員として高等学校勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や“チーム学校”の視点を持つ。
		学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要な知識や素養を体得する。
		総合的な学習/探究の時間での社会・生活課題探究のための指導計画作成/指導法/評価の知識技能を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	
小テスト	20%
レポート	60%
発表・実技	20%
授業内課題	
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90分
2	特別活動（１）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容	学習指導要領を読む	90分
3	特別活動（２）	教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領解説を読む	90分
4	特別活動（３）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質	現場が抱える問題を考える	90分
5	特別活動（４）	「特別活動」における評価と改善活動	現場の課題を考える	90分
6	特別活動（５）	集団活動	実践例を調べてくる	90分
7	特別活動（６）	家庭・地域住民や関係機関との連携	先進例を調べてくる	90分
8	特別活動（７） 総合的な学習（探究）の時間（１）	「特別活動」に関する総括 「総合的な学習（探究）の時間」の意義と教育課程における役割	学習指導要領を読む	90分
9	総合的な学習（探究）の時間（２）	学習指導要領における「総合的な学習（探究）の時間」の目標、各学校における目標及び内容の設定	学習指導要領解説を読む	90分
10	総合的な学習（探究）の時間（３）	年間指導計画の作成	実践例を調べてくる	90分
11	総合的な学習（探究）の時間（４）	単元計画の作成	先進例を調べてくる	90分
12	総合的な学習（探究）の時間（５）	探究的な学習の過程と方法	現場が抱える問題を考える	90分
13	総合的な学習（探究）の時間（６）	「総合的な学習（探究）の時間」の評価	現場の課題を考える	90分
14	総合的な学習（探究）の時間（７）	「総合的な学習（探究）の時間」に関する総括	自分の学校生活を振り返る	90分
15	本授業全体の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探究）の時間」と「生きる力」	本授業全体を振り返る	90分

《専門教育科目》

科目名	栄養教育実習			科目ナンバリング	5022101800
担当者氏名	能瀬 陽子			担 当 形 態	複担
授業方法	実習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	4 年 ・ I 期

《授業の概要》

栄養教諭の役割、職務についての理解を深め、栄養教育に必要な知識の向上を図る。実際の学校現場において、児童・生徒に対し食に関する授業研究、生徒指導、学校行事等に主体的に取り組む、体験的学習を深め、栄養教育における実践的な指導力を養う。

《授業外学習》

実習前に実習目標、課題を準備しておくこと。実習時間のみならず、帰宅後にも実習内容は詳細に記録し、実習目標や課題について、可能な範囲で研究・考察を行うこと。

《テキスト》

事前事後指導で配布した栄養教諭実習ノート 必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

教育実習までに課題内容を確認し、わからないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

『栄養教諭養成における実習の手引き』田中信 監修・編著 東山書房

《備考》

事前事後指導に継続する科目である。将来栄養教諭を目指す強い意思のある学生以外の履修は不可。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	履修カルテ参照	栄養教諭としての専門的知識の修得と技術の向上
○	履修カルテ参照	教職に関する実践能力、研究能力及び態度を養う

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	30%
授業内課題	
その他 ()	40%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	課題確認⑦	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
2	課題確認⑧	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
3	課題確認⑨	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
4	課題確認⑩	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	60分
5	教育実習	実習は、原則加古川市内の小学校で実施し、各実習校における指導教諭の計画に基づく1週間のプログラムで実施する。	課題整理	120分
6	—	—		
7	—	—		
8	—	—		
9	—	—		
10	—	—		
11	—	—		
12	—	—		
13	—	—		
14	—	—		
15	—	—		

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（栄養教諭）			科目ナンバリング	5023102400
担当者氏名	能瀬 陽子			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必修	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教員として学級経営ができる資質や生徒指導の能力を向上させるため、グループ討議やロールプレイによりスキルを身につける。また栄養教諭として、教壇に立つための基本的な教育力を養うため、生徒の食の問題点の調査・分析に基づく模擬授業を実践する。最後に学校現場で、現職教員の学級経営及び授業進行と自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較し、自分にとっての教職の意義及び教員の役割について論じる。

《授業外学習》

学級経営案や授業案など授業時間内では、作成できないため時間外の学習が必要となる。また、学校現場の見学も含まれているため移動時間も必要となる。

《テキスト》

「四訂 栄養教諭論 第2版」金田雅代 建帛社

《学習状況・理解度の確認》

授業最後の今日の講義内容について討議もしくは記録時間を確保する。その内容により必要な説明やアドバースを行う。担当者は栄養教諭として勤務歴のある実務経験者。

《参考図書》

「栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート」田中延子 学建書院

《備考》

活発な討議により多くの学びが生まれる。教員を目指す者同士、お互いに高めあう気持ちをもって、自分の考えを必ず述べるという意識をもつこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	栄養教諭として、学校経営を理解したうえで、児童・生徒を指導できる能力及び授業の実践力を身につける
		教職の意義及び教員の役割について認識を深める。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	30%
授業内課題	50%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	イントロダクション	グループ討議により、学習の振り返りを行いながら、自己の問題点などを認識する。	配布プリントを読むこと	45分
2	教職の意義や教員の役割	教職の職務内容、子供に対する責任などグループ討議を行いながら教職の意義や教員の役割について理解を深める。	配布プリントを読むこと	45分
3	学級経営講義Ⅰ	児童生徒理解、学級経営についての理論を理解する。	配布プリントを読むこと	45分
4	学級経営講義Ⅱ	社会性、児童生徒理解、学級経営についてグループ討議を行い他人の考えを傾聴しながら自分なりの考えを整理することができるようになる。	配布プリントを読むこと	45分
5	学級経営講義Ⅲ	学級経営案を作成する力を身につける。	配布プリントを読み返すこと	45分
6	学級経営講義Ⅳ	学級経営案を説明し、意見交換を行い、学級経営についてより理解を深める。	配布プリントを読むこと	45分
7	スクールソーシャルワーカーとの連携	不登校対策の実際として教育相談センターとの連携について理解する。	配布プリントを読むこと	45分
8	教師としての社会性や対人関係能力	校内の連携や保護者、地域との連携について傾聴し、考えをまとめる。	配布プリントを読むこと	45分
9	模擬授業Ⅰ	児童生徒の食の問題点の調査・分析する力を身につける。	授業案を考える	45分
10	模擬授業Ⅱ	授業計画を立案し、教材を作成する力を身につける。	教材を作成する	45分
11	模擬授業Ⅲ	模擬授業を行い、授業運営について改善点を検討することで、授業運営能力を育てる。	自分の授業について振り返る	45分
12	模擬授業Ⅳ	栄養に関する科目及び事前事後指導の担当教員を含めて、改善した指導案をもとに模擬授業を行い、授業運営能力を身につける。	配布プリントを読むこと	45分
13	学校現場の見学	現職教員の学級経営及び授業進行を見学し、自分の学級経営案・模擬授業と比較し、自分に不足している能力を認識する。	配布プリントを読むこと	45分
14	グループ討議	見学により感じたことについて、グループ討議を行い、どのようにしてその能力を身につければよいか改善策を考えることができる。	配布プリントを読むこと	45分
15	まとめ	自分にとっての教職の意義及び教員の役割についてまとめることにより、これからの教職に対する方向性を自覚することができる。	配布プリントを読むこと	45分

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（栄養教諭）			科目ナンバリング	5023102400
担当者氏名	能瀬 陽子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	4 年 ・ II 期

《授業の概要》

教員として学級経営ができる資質や生徒指導の能力を向上させるため、グループ討議やロールプレイによりスキルを身につける。また栄養教諭として、教壇に立つための基本的な教育力を養うため、生徒の食の問題点の調査・分析に基づく模擬授業を実践する。最後に学校現場で、現職教員の学級経営及び授業進行と自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較し、自分にとっての教職の意義及び教員の役割について論じる。

《授業外学習》

学級経営案や授業案など授業時間内では、作成できないため時間外の学習が必要となる。また、学校現場の見学も含まれているため移動時間も必要となる。

《テキスト》

「四訂 栄養教諭論 第2版」金田雅代 建帛社

《学習状況・理解度の確認》

授業最後の今日の講義内容について討議もしくは記録時間を確保する。その内容により必要な説明やアドバースを行う。担当者は栄養教諭として勤務歴のある実務経験者。

《参考図書》

「栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート」田中延子 学建書院

《備考》

活発な討議により多くの学びが生まれる。教員を目指す者同士、お互いに高めあう気持ちをもって、自分の考えを必ず述べるという意識をもつこと。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	栄養教諭として、学校経営を理解したうえで、児童・生徒を指導できる能力及び授業の実践力を身につける
		教職の意義及び教員の役割について認識を深める。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	30%
授業内課題	50%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	イントロダクション	グループ討議により、学習の振り返りを行いながら、自己の問題点などを認識する。	配布プリントを読むこと	45分
2	教職の意義や教員の役割	教職の職務内容、子供に対する責任などグループ討議を行いながら教職の意義や教員の役割について理解を深める。	配布プリントを読むこと	45分
3	学級経営講義Ⅰ	児童生徒理解、学級経営についての理論を理解する。	配布プリントを読むこと	45分
4	学級経営講義Ⅱ	社会性、児童生徒理解、学級経営についてグループ討議を行い他人の考えを傾聴しながら自分なりの考えを整理することができるようになる。	配布プリントを読むこと	45分
5	学級経営講義Ⅲ	学級経営案を作成する力を身につける。	配布プリントを読み返すこと	45分
6	学級経営講義Ⅳ	学級経営案を説明し、意見交換を行い、学級経営についてより理解を深める。	配布プリントを読むこと	45分
7	スクールソーシャルワーカーとの連携	不登校対策の実際として教育相談センターとの連携について理解する。	配布プリントを読むこと	45分
8	教師としての社会性や対人関係能力	校内の連携や保護者、地域との連携について傾聴し、考えをまとめる。	配布プリントを読むこと	45分
9	模擬授業Ⅰ	児童生徒の食の問題点の調査・分析する力を身につける。	授業案を考える	45分
10	模擬授業Ⅱ	授業計画を立案し、教材を作成する力を身につける。	教材を作成する	45分
11	模擬授業Ⅲ	模擬授業を行い、授業運営について改善点を検討することで、授業運営能力を育てる。	自分の授業について振り返る	45分
12	模擬授業Ⅳ	栄養に関する科目及び事前事後指導の担当教員を含めて、改善した指導案をもとに模擬授業を行い、授業運営能力を身につける。	配布プリントを読むこと	45分
13	学校現場の見学	現職教員の学級経営及び授業進行を見学し、自分の学級経営案・模擬授業と比較し、自分に不足している能力を認識する。	配布プリントを読むこと	45分
14	グループ討議	見学により感じたことについて、グループ討議を行い、どのようにしてその能力を身につければよいか改善策を考えることができる。	配布プリントを読むこと	45分
15	まとめ	自分にとっての教職の意義及び教員の役割についてまとめることにより、これからの教職に対する方向性を自覚することができる。	配布プリントを読むこと	45分

《専門教育科目》

科目名	事前事後指導			科目ナンバリング	5023202700
担当者氏名	能瀬 陽子			担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

栄養教育実習の概要を説明するとともに、学校教育における食に関する指導の重要性を確認する。栄養教諭としての専門性の向上及び児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標設定など、栄養教育実習の位置づけを確認する。事後指導においては、反省点を捉えなおし、知識・技術定着のために課題や問題点を明確にする。

《テキスト》

栄養教諭実習ノートを作成し配布する。

《参考図書》

『栄養教育論 理論と実際』金田雅代編著 建帛社

《授業外学習》

実習校への事前訪問、事後訪問も含まれる。事前訪問までに実習校の歴史、規模、教育方針も調べておくこと。予習として、小学校の各学年で習う漢字・書き順を確認しておくこと。復習として研究授業のテーマにふさわしい内容に仕上げておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

事前指導における書類等については、その都度確認を行う。課題については、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《備考》

将来栄養教諭を目指す学生以外の履修は不可。事後指導は4年次教育実習後に行う。成績の最終評価は教育実習事後指導後に行う。プレゼンテーション、フィールドワークを行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	履修カルテ参照

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	40%
授業内課題	30%
その他()	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 事前指導①	栄養教諭に向けての心得や授業の内容を理解する。	実習ノートの確認	45分
2	事前指導②	栄養教育実習要領を理解する。栄養教育実習に関する必要書類の確認を行い、実際に書類を作成する。	実習ノートの確認	45分
3	事前指導③	栄養教育実習校への事前訪問の仕方、実習ノート記載方法等学校教育実習に関する注意事項を理解する。	実習ノートの確認	45分
4	事前指導④	学校教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の再確認を行う。	実習ノートの確認	45分
5	課題確認①	栄養教諭に必要な知識の確認を行う。	レポート作成	45分
6	課題確認②	学校教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の再確認を行う。	レポート作成	45分
7	課題確認③	学校教育実習報告書の作成方法の確認を行う。	レポート作成	45分
8	事後指導①	学外実習の内容を振り返り身につけたことを振り返る。	授業内容の整理	60分
9	—	—		60分
10	—	—		60分
11	—	—		60分
12	—	—		60分
13	—	—		60分
14	—	—		45分
15	—	—		45分

《専門教育科目》

科目名	教育原理			科目ナンバリング	5031308300
担当者氏名	岡本 洋之			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育を、歴史、社会、思想など多様な視点から検討し、教育と社会との関係や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《授業外学習》

学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《テキスト》

授業中にプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamoto@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

教職教養 教育原理（教員採用試験情報研究会編、一ツ橋書店）

《備考》

グループワークを行う。また担当者は教員として高等学校勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
		主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のあり方と関連づけることができる。
		家族や社会による教育の歴史を理解している。
		子どもの権利と福祉について理解している。
		生涯学習の理念を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試 験	0%
小テスト	20%
レポート	60%
発表・実技	0%
授業内課題	20%
その他 ()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	人間とは何だろう	オリエンテーション（授業概要及び評価に関する説明）、人間の特質と教育	教育に関する日常の思いの整理	90分
2	教育とは何だろう	教育の概念と本質	教育とは何か	90分
3	人間と教育の関係を考えよう	子どもの発達と教育	子どもの発達	90分
4	教育への理解を深めよう	教育の目的、形態と機能	教育の諸相	90分
5	主な西洋教育思想とその系譜を見よう①	子ども観の変遷、代表的思想家とその教育思想	中世西洋教育思想	90分
6	主な西洋教育思想とその系譜を見よう②	代表的思想家とその教育思想、教育思想と現代の教育	近代西洋教育思想	90分
7	公教育制度の成立と発展を見よう①	教育・学校の起源と歴史、近代公教育の誕生	近代学校教育の始まり	90分
8	公教育制度の成立と発展を見よう②	日本における明治期以前の教育、近代学校制度の成立	寺子屋以後の日本の教育	90分
9	教育への理解をいっそう深めよう	教育の内容と方法	たとえば水道方式等の概要	90分
10	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう①	戦前まで	戦前までの日本教育史概要	90分
11	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう②	戦後	戦後日本教育史の流れ	90分
12	子どもの実態と教育の関係を考えよう①	教育における「ケア」	現在の子どものたちの様子	90分
13	子どもの実態と教育の関係を考えよう②	児童の福祉・保護と教育	教育と福祉の関係	90分
14	未来の教育への展望を探ろう	生涯学習	生涯学習とは何か	90分
15	本授業の総括	現代社会と教育、本授業の総括	これまでに扱った内容の整理	90分

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論			科目ナンバリング	5051503695
担当者氏名	吉永 潤			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育方法・技術及び教育評価に関する基礎的理論・概念の理解を踏まえ、現代社会が求める主体的、対話的で深い学びの実現を生む教育方法と技術についての理解、とりわけ情報機器の教育的機能についての理解を深める。以上の上で、学習指導案の作成をグループ作業として体験し、成果を相互に交流・批評する。

《授業外学習》

グループで学習指導案作成を行うため、授業外でのグループワークを要する。

《テキスト》

WEBにて資料配布を行う。

《学習状況・理解度の確認》

各授業後に小レポートを課する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する—未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2015

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教育方法の基礎的理論を理解し、教育実践での活用が行える。
		現代の教育実践に求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育方法の重要性を理解している。
		深い学習と対話的授業の実現のために情報機器の活用方法が理解でき、実践活用できる。
		学習者自身の情報機器活用能力育成と情報モラル形成の意義が理解できる。
		以上を踏まえて学習指導案を構成でき、その相互批評を通じて授業改善の重要性が理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	0%
授業内課題	20%
その他 ()	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業と学びの質を左右する教育方法・教育技術・情報機器活用	授業内容の復習	45分
2	教育方法の基礎的理論と概念	教授と学習、教育方法と教育内容、問題解決学習と系統学習	授業内容の復習	45分
3	現代に求められる教育方法 1	知識・理解とその主体的・実践的活用能力の育成	授業内容の復習	45分
4	現代に求められる教育方法 2	対話・コミュニケーション能力と協同的問題解決能力の育成	授業内容の復習	45分
5	授業と学習を構成する環境 1	学習素材としての教科書、教材、学習者の多様な既有経験	授業内容の復習	45分
6	授業と学習を構成する環境 2	情報機器の意義とその活用法	授業内容の復習	45分
7	学習と授業の評価 1	教育目標と学習評価の不即不離性、多様な学習評価の考え方と方法	授業内容の復習	45分
8	学習と授業の評価 2	学習評価を通じた授業の評価と改善のサイクル	授業内容の復習	45分
9	対話的授業を生む教育方法 1	多様性と対話を生み出す教材構成と問い・課題設定	授業内容の復習	45分
10	対話的授業を生む教育方法 2	学びを可視化・共有・定着させる板書と情報機器活用	授業内容の復習	45分
11	対話的授業を生む教育方法 3	学習者による情報機器活用能力の育成と情報モラルの形成	授業内容の復習	45分
12	学習指導案の開発と交流 1	グループ形成、教科選定、教材・指導案構成の話し合い	グループワーク	90分
13	学習指導案の開発と交流 2	学習指導案プレゼンテーション 1	グループワーク	90分
14	学習指導案の開発と交流 3	学習指導案プレゼンテーション 2	グループワーク	90分
15	講義全体のまとめ	学習指導案の相互評価と授業全体の振り返りディスカッション	授業内容の全体に関する復習	45分

《専門教育科目》

科目名	教育制度論			科目ナンバリング	509ST40500
担当者氏名	岡田 広示			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所を目を通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。小テーマごとにミニテストを実施する。

《備考》

education system

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規とその概要、教育行政の仕組みや学校制度について説明できる。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	20%
レポート	0%
発表・実技	5%
授業内課題	
その他（ ）	15%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等についてグループワークを通して理解する。	学校における諸問題についてレ	90分

《専門教育科目》

科目名	教育心理学			科目ナンバリング	509ST40701
担当者氏名	松田 信樹			担 当 形 態	単独
授業方法	0	単位・必選	2	・ 選択	開講年次・開講期
					1 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

《授業外学習》

参考図書として取り上げた図書を読むことを通して、授業で取り上げたテーマについて理解を深めてもらいたい。毎回の授業で配布する資料とテキストを復習し、授業で扱った重要事項について理解を深めること。

《テキスト》

『育ちと学びの心理学 ―こどもの成長に寄り添うために』 松田信樹（著） あいり出版
2018 1年Ⅱ期開講の「発達心理学」で使用したテキストと同著。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業内容の理解度を確認するための小テストで学習状況と理解度を確認する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学〔第5版〕』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎
（著） 有斐閣 2019

《備考》

Educational Psychology 受講学生とのディスカッションを交えて授業を行う。先生と呼ばれる専門職を目指していることを心得て授業に臨むこと。質問等には、オフィスアワーに対応する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	30%
レポート	
発表・実技	
授業内課題	20%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育心理学への導入	教育心理学はどのような学問か。 発達と学習の心理学を学ぶ意義	授業資料とテキストの復習	60分
2	発達の基礎	人間が発達するとはどういうことか：発達観の明確化	授業資料とテキストの復習	60分
3	能力と性格の発達	人間の発達を支える2つの柱：遺伝と環境、そして遺伝と環境の相互作用	授業資料とテキストの復習	60分
4	子どもの発達①	新生児期から乳児期にかけての発達	授業資料とテキストの復習	60分
5	子どもの発達②	幼児期から児童期にかけての発達	授業資料とテキストの復習	60分
6	子どもの発達③	青年期の発達と青年期特有の心の問題	授業資料とテキストの復習	60分
7	発達のつまずき	発達障害の基礎。生きづらさを抱える子どもの心理。	授業資料とテキストの復習	60分
8	学習の仕組み①	学習の成立：特に条件づけの仕組みについて	授業資料とテキストの復習	60分
9	学習の仕組み②	学習の成立：特にモデリングの仕組みについて	授業資料とテキストの復習	60分
10	やる気の心理学①	学習に対する動機づけ：特に内発的動機づけについて	授業資料とテキストの復習	60分
11	やる気の心理学②	学習に対する動機づけ：無力感に陥る仕組みと自己効力について	授業資料とテキストの復習	60分
12	学習を支える記憶の仕組み①	記憶の基本的な仕組みについて、心理学実験を通して体験的に理解する。	授業資料とテキストの復習	60分
13	学習を支える記憶の仕組み②	記憶に残る学習方法を考える。	授業資料とテキストの復習	60分
14	教授法と教育評価	何をどのように教え、どのように評価するかを学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60分
15	学級集団の理解	集団心理学の観点から、集団力学ならびに学級集団作りについて考える。	授業資料とテキストの復習	60分

《専門教育科目》

科目名	教育課程論			科目ナンバリング	509ST41000
担当者氏名	關 浩和			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになっていく。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。本講義では、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史的変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程についてあり方について学ぶ。

《テキスト》

關浩和（2023）『教育課程論研究』吉本宝文堂，176p. 初回の講義の時に配付します。頒布価格 1,000円。受講生は、必ず購入してください。

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』、文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説』を適宜参照する。・授業の中で、適宜プリントを配付する。

《授業外学習》

・講義ノートを準備して、授業外で必ずテキストを読み、予習・復習を行い、毎回の講義内容の整理を行い、講義ノートにまとめることで各自1冊のノート（＝ポートフォリオ）づくりを行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

・小テストを実施して学習状況、理解度を確認します。・分からないことは、適宜質問を受け付け対応します。

《備考》

Education Curriculum Theory ・受講者には、主体的に授業に参加することを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育課程の構造や教育課程開発理論、編成原理に関する基礎知識及びその関連性を説明することができる。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	社会的背景を加味して学習指導要領の歴史的変遷を説明したり、カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割について説明することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試 験	0%
小テスト	40%
レポート	40%
発表・実技	10%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育課程の編成原理	教育課程は、教育基本法や学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領などに基づいて編成されていることを概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
2	国家主義教育課程の 成立過程①	学校制度が始まるまでの日本の古代から近世（藩校や寺子屋の教育法）に至る教育の歴史を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
3	国家主義教育課程の 成立過程②	文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が、天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
4	大正期新教育運動による カリキュラム改革	大正デモクラシーの時代の風潮の中で、子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
5	戦後「新教育」の カリキュラム改革	中央集権的で画一的な教育編成を改め、アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
6	学習指導要領に見る 教育課程の変遷①	経験主義による教育内容の改造を図った昭和22年版学習指導要領について教育内容及び教育課程編成原理を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
7	学習指導要領に見る 教育課程の変遷②	経験主義による4領域を打ち出して教育内容の改造を図った昭和26年版学習指導要領について教育内容及び教育課程編成原理を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
8	学習指導要領に見る 教育課程の変遷③	高度経済成長期の系統主義による教育内容の改革を図った昭和33年版学習指導要領について概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
9	学習指導要領に見る 教育課程の変遷④	「教育内容の現代化」を図った昭和43年版学習指導要領の歴史的変遷について社会的背景を基に読み解く。	テキストを読む 内容整理	60分
10	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑤	現代化カリキュラムは過密という批判の中からゆとりカリキュラムとなった昭和52年版学習指導要領の特徴を明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60分
11	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑥	「生きる力」と「ゆとり」を打ち出した平成元年・平成10年版学習指導要領までの歴史的変遷を理解し、特徴と課題を明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60分
12	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑦	”最低基準性”を打出した学習指導要領の一部改訂の動向や平成20年版学習指導要領の“確かな学力”と“生きる力の育成”を打出した学習指導要領を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
13	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑧	平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領の特徴を明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60分
14	組織論による特色ある教育課程開発の理論と実際	地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点としたカリキュラム・マネジメントについて理解を深める。	テキストを読む 内容整理	60分
15	教師の役割及び教育課程の評価的研究・総括	カリキュラム・マネジメント及びカリキュラムの一部としての教師の役割について考察する。	テキストを読む 講義の総括	60分